

宮地嶽神社めぐり

拝殿の縁の下にひっそりと佇む『撫で牛』。自分の痛い場所と同じ場所を撫でると、調子を回復してくれるとか



宮地嶽神社は神功皇后を主祭神として約1700年前に創建。「何事にも打ち勝つ開運の神」として信仰される神社。宮地嶽神社の本殿はもともこの参道である石段を上りつめた場所にあった。



甘く香ばしい「松ヶ枝餅」を焼く香りが漂う門前町通り。昔ながらの手焼きにこだわる店や、さくら餅や抹茶餅など今までになかった焼き餅が味わえる店もあり!



宮地嶽神社の境内には、日本最大級の横穴式石室古墳の中に『お不動様』をお祀りしている「不動神社」や、女性の心身の悩みにご利益のある「恋の宮」など、「奥之宮八社」と呼ばれる八つの社が祀られている。

さくらのふくつ案内【宮地嶽神社】

ふら、いつ上っても宮地嶽神社の石段は息が切れるなあ……。今までに何度上り下りしたかわかりませんが、この石段を上り切った時、後ろを振り向けば、いつもの福津のまちと福津の海。子どもの頃から見ていたこの景色が大人になった私の背中を押してくれます。ここは私にとって大切な思い出が

詰まった場所です。男子たちがここでダンスの練習をしていて、私は石段に座って眺めていました。毎年秋に行なわれる秋季大祭では、祭王に選ばれた十二単姿の有名歌手や女優を見に行つてはその姿に憧れていました。でもまさかそんな私が祭王に選ばれるなんて！ 最初は不安でしたが、地元出

身の歌手として、毎年楽しみにしている福津の皆さんのためにも、しっかり堂々と祭王を務めようと思えました。石段の上から見る参道の眺めも、拝殿に掛けられた大注連縄も、世界中の人に思い来てもらいたい自慢の場所福津の皆さんもそう思っていると思います。

おおしめなわ  
大注連縄をつくった人



宮地嶽神社の大注連縄は、直径およそ2.6m、長さ約11m、重さ約3t。奉製作業には延べ1500人もの人々が関わる。御神田で育った稲藁を手作業で束ね、少しずつ太くしていくという途方もない作業だ。大注連縄実行委員会会長の高田和浩さんによると、およそ2ヵ月間、朝から晩までこの作業にかりきりという。昔は3年に1度だったが、今は毎年作りなおして取り替えているそうだ。難しいのは毎年同じ太さ、同じ長さの藁ができるわけではないので、細かな調整が必要になったり、その都度やり方も改善したりすること。取り替えの作業も一発勝負。「宮地嶽神社の大注連縄といえば、福津の皆さんにとって自慢の風景。これを途絶えさせてはいけないという使命感を感じています。この大注連縄は作業に関わったすべての人の誇りであり、この縄に人々の熱い思いがこめられています」と高田さんは語ってくれた。

